

学校関係者評価報告書

愛媛県立八幡浜高等学校 全日制

学校番号 34

評価実施日		令和7年2月20日(木)	
委員	氏名	所属等	備考
	幸田 裕司	(一社)愛媛県ネットワーク協会 メンタル・トレーナー	
	柳澤 義文	八幡浜市立八代中学校校長	
	中井 貴一	(株)中井建設	
	成瀬 智文	PTA会長	
福岡 勝也	PTA顧問		

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>今年度の最終評価について</p> <p>1 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者からの評価が低い原因をしっかりと分析し、その対応策を多角的に検討するなど、次年度に向けて改善を図ってほしい。 「主体的に学習に取り組む態度」を育成する学習指導の研究を、他校の取組も参考にして進めて頂きたい。 教員の研修・研究授業への参加については、日常業務との兼ね合いも大変であると思われる。教員の研修・研究授業への参加が目標よりも足りなかった要因を分析し、研修・研究授業への参加がしやすい環境の整備を検討してください。 <p>2 生活指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きな事故に繋がらないよう、登下校時の対車両への注意喚起、危険意識の向上となるような指導をお願いしたい。 ボランティア活動100%参加に関しては、具体的な方策をとらないと難しいと思う。 <p>3 進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学の学部・学科、あり方、試験方法などに様々な変化があり、価値観も変わってきているようである。進路に対する情報も膨れ上がる中、更なる研究、大学・専門学校や企業との連携が必要になったのだと思う。ご尽力をお願いしたい。 生徒の進路希望達成率100%に向けた教職員のご苦労がよく理解できた。 地元企業への就職について、もう少しだけ力を入れてほしい。 <p>4 健康・環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度トイレを一箇所改修したようであるが、安全面、健康面に心配があるのであればスピード感に欠けるのではないかな。 トイレ以外の設備で改善した方がよい箇所はないか。計画的に改修を進めてほしい。 身体は健康だけでなく、心の健康ケアも検討してほしい。生徒だけでなく、教員の心のケアにも努めてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 若干ではあるが、評価している保護者の割合は増えているので、公開授業等を通して、本校の学習活動を理解してもらおう努力を継続したい。 自分の課題を見つけ、それを解決しようとする「主体的に学習に取り組む態度」を、探究的・横断的な学習によって育む指導と、それを適切に評価する方法の研究を継続していきたい。 オンライン研修への参加やSTEAM教育・学校の魅力化につながる研修の充実を日常業務とのバランスを取りつつ目標の達成を図りたい。 交通事故は、加害者・被害者のどちらかまたは双方による安全意識の欠如や交通違反によって発生することを理解させ、生徒には交差点進入時の安全確認や「人が飛び出して来たら、車が一時停止しなかったら、信号無視をしてきたら」など、相手側の「もしも」を意識できるような指導を心掛け、交通事故の未然防止に努めたい。 定期的なボランティアの募集に加え、来年度からは、ボランティア活動に参加した生徒に、活動レポートを書いてもらい、ボランティア内容や感想等を全校生徒に共有させて、参加する生徒を増やしたい。 生徒一人ひとりに合った情報提供と進路選択のサポートが重要である。そのために、従来の学力重視の指導だけでなく、個々の生徒の適性や希望に応じた進路指導を強化する必要がある。ただし、依然として一般選抜で受験したい生徒が多い現状を踏まえ、学習面のサポートについては、記述力・論理的思考力を鍛える指導に力を入れていきたい。 地元企業の情報提供や合同企業説明会などで、地域理解と職業意識を高めさせ、将来に向けたキャリア形成と企業開拓に努めたい。 安全面、健康面では特に問題はないと思われる。予算的なこともあり、一気に改修とはいかないが、県に要望を出し続けたい。 老朽化している所も多いため、安全面を考慮して優先順位を付け改修を考えたい。 SLA(スクールライフアドバイザー)、SSW(スクールソーシャルワーカー)、保健環境課を中心に、いつでも相談に乗れる体制を強化したい。教員の心の負担についても軽減できるよう努めたい。
<p>5 図書・情報</p> <ul style="list-style-type: none"> 読書活動の充実について貸出総数が1000冊を超え、昨年度の貸出数よりも約30%増加しており目標を達成できている。ただし、図書室を利用したことのない生徒・教員は一定数まだいるので、来年度の図書室利用促進を図ってもらいたい。図書委員会による行事など、生徒が主体的になって目標を達成できる活動を定着させてほしい。 ホームページの発信については上手くいっていると評価する。STEAMという言葉は知りませんが、様々なところで結果が出ているのがいいと思います。 <p>6 人権・同和教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 差別というものは、同和問題以外にも、コロナ発生時や、津波による放射線被ばく地、出身学校、居住地域など、どこにも発生しています。自分事として考えられるような具体的な事例を取り上げた内容にすることが効果的なのではないかと思えます。また、生徒だけではなく、多くの保護者にもご参加いただけるような対策をして、大人子供が共有していくことが大事だと思います。 人権委員会活動や人権・同和教育研修会については、毎年、内容をブラッシュアップし、更に良いものにしてほしい。 <p>7 業務改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正な勤務時間の実現のためには、仕組み以上に勤務者の意識が大切だと思う。中でも、管理職が積極的に実践することによって全体への浸透につながるため、管理職の責任は重大であると思う。 教職員の長時間労働は正に向けて様々な取組をしているが、膨大な業務量のスリム化等に努めてほしい。 業務改善を実施して、今後ともライフワークバランスを各自が確保できるように、画一的ではなく個別的な検討を行ってほしい。 授業が終わってからの部活動指導や授業準備などのために長時間労働となる状況は理解できるが、業務分担の再考や効率化を図ることで、体調管理には十分に留意してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、読書会・ビブリオバトルなど図書委員会による取組を2・3学期に実施した。この活動の中心となった2年生が来年度参加できる1学期に実施することや年間交流や活動の定着化を図りたい。 授業での図書室利用を促進する方策を実施する。 ホームページのアクセス平均数は昨年より150件ほど増加している。来年度はSTEAMルームを活用して動画作成などを増やしていきたい魅力発信につなげていきたい。 国から研究指定を受けているデジタル人材育成を目指すためにもSTEAM教育を通じた「総合的な探究の時間」を充実させたい。 今後も教職員が生徒に還元できる研修内容にしていきたい。また、文化祭でのバザー販売も引き続き行い、交流を深めたい。 1年次は、身近な人権問題について幅広く学ぶため、幅広い差別問題について学習している。時代に即応した問題について学習を促していきたい。 人権委員会の活動はさらに活発なものにするために、他校との交流を深め、内容を精選していきたい。委員以外の生徒への参加を呼び掛け、生徒に協調性や社会性を身に付けさせたい。 少子化の影響で生徒数が減少しているものの、生徒の多様化は進んでいる。こうした生徒たちへの対応をしっかりと行うためにも、教職員間の情報共有と共働を一層進めていきたい。 現在進めている業務改善について、その成果や課題を見極め、次年度に生かしていきたい。「早く帰ろうDAY」は、月に1回設定してはいるが、実態が伴っていないように思う。来年度は、月に2回の実施を計画し、実態が伴うように管理職がイニシアティブをとって実践していきたい。 令和8年度から、市内3高校が統合され新校になるが、生徒にとって魅力的な学校に、教職員にとって働き甲斐のある学校になるよう、今後も業務改善と働き方改革を進め、教職員のライフワークバランスの実現を図っていききたい。